

順位	氏名（議席）	発言の要旨
15	川窪 吉男（29）	<p>1. JR東田子の浦駅北口設置構想について</p> <p>私は市議会議員を拝命して以来、このテーマにつきましても、地域住民の皆様と対話を重ね、行政懇談会でも取り上げ、駅周辺の利便性や安全性向上に関する多くの意見を伺いました。また、元吉原地区のみならず、富士市東部地域の方々にも御意見を伺っております。駅というのは地域の重要な交通結節点であり、誰もが安心して利用できる環境に整備することは、地域活性化や住民福祉の向上にもつながると考えております。同様のテーマでは6回目の一般質問になりますので、文章に聞き覚えがあるところもあるかもしれませんが、御容赦いただきたいと思います。</p> <p>JR東海道本線は明治22年2月に新橋駅－静岡駅間が開通しました。その年、鈴川駅（現在の吉原駅）が開業し、それから20年後の明治42年に隣りの富士駅が開業しました。大正になり元吉原村東部、吉永村、浮島村、原町西部の皆様もこの東田子の浦駅設置について鉄道当局に陳情しましたができませんでした。昭和に入り再度陳情しましたが、戦時中でもあり、建設できませんでした。その後、終戦を迎えた昭和23年に柏原駅新設期成同盟会が結成され、幾多の困難を乗り越えて昭和24年9月15日に東田子の浦駅と命名され開業しました。開業当時は北側には少し工場があったものの、ほとんどが田んぼや沼地であったようです。しかし、戦後の高度経済成長とともに工場が建設され、国道1号バイパスも通り、一般住宅も建ち、現在では大型スーパーや介護施設も建設されています。現在は1日1500人から1700人が利用していますが、この多くは家族の送迎での利用です。しかし、北口がないため、駅の東側の地下道を通るか西側の踏切を通り、両方とも一度旧国道1号に出ないと駅にたどり着きません。しかし、東側の地下道は、大雨のときなどは通行止めになることもあり、北口がないために皆さん日々苦勞しているのが現状です。また、朝の通学、通勤が重なり狭いロータリーは交通渋滞が発生し、近隣住民の日常生活にも支障が出ています。このテーマは地域の長年の悲願であります。そこでお伺いいたします。</p> <p>(1) 昨年11月定例会において、小長井前市長は「北口設置を実現できなかったことは大変心残りであり、議員はじめ地域の願いや思いを次期市長にしっかりと引き継ぐ」と答弁されましたが、どのように引き継がれたのか伺います。</p> <p>(2) 前市長からの引継ぎや利用状況を踏まえ、北口設置について行政としてどのように考えているか伺います。</p> <p>(3) 昨今の東田子の浦駅の利用状況をどのように捉えているか伺います。</p> <p>(4) 北口設置を実施する事業主体となるJR東海と、今後、どのように協議していくのか伺います。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
16	杉山 諭（24）	<p>1. 富士市職員配置適正化計画について</p> <p>富士市は、富士市職員配置適正化計画のこれまでの取組や経過について検証を行い、令和6年12月に追補版を策定しました。この追補版は、人事院勧告に基づく大幅な職員給与改定を実施している状況や今後の見通しを踏まえ、計画目標（主指標）等を一部追記しています。職員配置適正化計画で管理対象となる会計年度任用職員の適正化について以下伺います。</p> <p>(1) 富士市職員配置適正化計画（追補版）の趣旨と目的について伺います。</p> <p>(2) 令和8年度小中学校の会計年度任用職員（学校司書）の勤務日数が削減されているが、その理由と内容について伺います。</p> <p>(3) 追補版の基本方針には、「総労働時間の縮減により総人件費の抑制を目指します。」と追記されているが、総人件費の抑制を目指すことが本計画の目的にどう結びつくのか伺います。</p> <p>(4) 富士市職員配置適正化計画の達成に向けた取組では、令和2年度に各所属から提出された業務活動レビューの削減提案について、定期的な進捗管理を行うとあるが、進捗管理の方法、及び実際に削減できた内容とその実績を伺います。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
17	小野 泰正（8）	<p>1. 富士市デジタル変革宣言に伴う今後の戦略的企業誘致について</p> <p>富士市は産業都市として発展し、多くの企業が立地する一方、若者が大学進学等で市外へ出た後、働く場所がないとの理由で、なかなか富士市に戻って就職できない問題があり、様々な施策を講じてきております。一方、令和2年8月に、産業分野におけるA I等先端技術の利用の推進等の取組を掲げた富士市デジタル変革宣言を行いました。産業転換期とも言われている時代の中で、今後、富士市の強みや地理的な特徴を生かし、次世代産業を育てることは官民一体で取り組む重要課題であると考えます。</p> <p>そこで、以下質問します。</p> <p>(1) 富士市の産業を育てるに当たって、現在行っている施策はどのようなものがあり、課題は何でしょうか。</p> <p>(2) エネルギー消費量の多い産業で発展してきた富士市では、グリーントランスフォーメーションに早くから取り組んできましたが、現在進めている施策はどのような状況ですか。また、国や県の動向に沿うものになっていますか。</p> <p>(3) A Iをはじめとしたデジタル産業と既存の産業を結びつけることが、次世代産業への転換に必須であると言われていたが、富士市の産業が次世代産業へ発展していくためにどのような戦略で進めていく考えですか。</p> <p>(4) A Iの発展とともに必要性が増している超高効率データセンターなどを誘致することは考えられますか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
18	鈴木 幸司（19）	<p>1. 「超かぐや姫！」を活用した取組について</p> <p>アニメーション映画「超かぐや姫！」は、6月18日に全国上映終了と報じられたが、直近では6月27日、28日に高知県での特別上映会開催が発表されるなど、ファンの熱狂ぶりはとどまることを知らない。富士市内でもスタンプラリーなどの公式タイアップ企画が進行中だが、「稼げる市No.1」を掲げる本市としては今後どのような施策を展開していくつもりなのか、市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 現在進行中のタイアップ企画の効果をどう分析するか。</p> <p>(2) 他者IP（知的財産）の活用にはライセンス料の発生などの問題もあるが、今後はどのような事業展開を考えているのか。</p> <p>(3) 富士市でも特別上映会を開催してはどうか。</p> <p>(4) 富士山かぐや姫ミュージアムにおいてラフ原画等の展示会を開催できないか。</p> <p>2. 富士市職員のワーク・ライフ・バランスの実現について</p> <p>本年5月12日付で、「富士市職員のワーク・ライフ・バランスの実現への配慮について（お願い）」という通知が議長名で発出された。これは業務時間外や昼休憩中に各課を訪問したり架電することを控えるように議員各位にお願いするものであった。</p> <p>また、昨年11月定例会での一般質問において、当時の総務部長は、まだ分析中と前置きしながら「8月から9月にかけてハラスメントに係る調査を行っている」「マニュアルの見直しも当然していきたい」と答弁された。カスハラ防止法と称される改正労働施策総合推進法の施行が迫る中、以下質問する。</p> <p>(1) 昨年8月から9月に行われたハラスメントに係る調査の結果及び分析の結果はどうだったか。</p> <p>(2) 分析の結果、ハラスメント対応マニュアルはどう見直されたのか。</p> <p>(3) カスハラに関しては組織として対応していくとのことだったが、カスハラ防止法施行を直前に控え、対応チームなどは組織されたのか。</p> <p>3. 自転車安全利用五則について</p> <p>令和8年4月1日施行の改正道路交通法により、自転車の違反に対して交通反則通告制度（青切符制度）が導入された。市内各地域で行われている安全大会でも自転車に関する交通安全の啓発が行われており、その際、市のウェブサイトにも掲載されている自転車安全利用五則が紹介されている。自転車は本来軽車両に分類される乗り物であり、車道通行が原則である。いずれも当たり前のことが書かれているが、歩道通行の例外規定など自転車に乗り慣れていない市民には分かりにくい部分もある。こうした現状を踏まえ、以下質問する。</p> <p>(1) どちらも白色の実線で書かれている路側帯と車道外側線の違いは。</p> <p>(2) 道路交通法及び道路構造令上の歩道とは。</p> <p>(3) 自転車安全利用五則に示される歩道には、路側帯等の歩行の用に供される部分、いわゆる「みなし歩道」も含まれるのか。</p> <p>(4) 自転車に傘を固定する器具を利用した雨天時の走行は本市では認められているのか。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
19	井出 晴美（20）	<p>1. 高齢者肺炎球菌感染症定期予防接種の接種率向上について</p> <p>肺炎は、高齢者にとって重症化しやすく、入院や要介護化、さらに命に関わる大きなリスクも含む病気です。高齢化が進む中で、健康寿命の延伸や医療費抑制の観点から、予防医療の充実が求められています。高齢者肺炎球菌ワクチンは、肺炎の重症化予防に有効とされる一方で、制度内容が分かりにくい、対象年齢を知らない、副反応への不安、接種費用の負担感などにより、接種率向上が課題となっております。</p> <p>現在、市の制度では、原則65歳時のみを定期予防接種の対象としておりますが、65歳時には必要性を感じなかった、制度を知らず接種機会を逃した、体調や経済的事情で受けられなかったという方も少なくありません。</p> <p>そこで、以下、質問いたします。</p> <p>(1) 富士市における高齢者肺炎球菌感染症定期予防接種の接種状況（接種率、未接種の理由）について、どのように把握・分析しているか伺います。</p> <p>(2) (1)の結果を踏まえ、定期予防接種の通知が高齢者である対象者に分かりやすい内容となっているか。また、未接種者への再勧奨も含め、地域包括支援センター、町内会（区）、悠容クラブ、民生委員等と連携した周知・啓発を行っているか伺います。</p> <p>(3) 接種率向上にはかかりつけ医からの声かけが効果的と考えますが、医師会や医療機関との連携について市の考えを伺います。</p> <p>(4) 高齢者の場合、予約の負担や交通手段の問題などにより接種をためらう方もおります。集団接種や移動支援、通院時の接種勧奨など、定期予防接種を受けやすい環境づくりについて市の考えを伺います。</p> <p>(5) 肺炎予防は、高齢者本人だけでなく、家族の安心にもつながる重要な取組であり、高齢化が進む中、予防医療をより重視した施策推進が求められています。また、対象年齢に満たない方に対しても、将来の高齢者肺炎球菌感染症定期予防接種の接種率向上のため、65歳になったら接種という意識づけが重要と考えます。予防医療の推進について市の考えを伺います。</p>